

橋・トンネル対策 人材難

危険度高い箇所 地方管理9割

2012年の中央道笹子トンネル天井板崩落事故を受けた全国の橋やトンネルの点検で「緊急」または「早期に」措置が必要と判定されたものが4万4742カ所に上り、うち9割を地方自治体の管理分が占めていることが国の調査でわかった。専門家は点検や補修作業の担い手不足を指摘しており、地方での人材育成が急務となっている。

人口約1万5千人の三重県玉城町では、日常の点検業務を町職員1人とシルバ人材センター2人の計3人が担当し、道路や165ある橋の状態を確認している。15年ほど前まで3班あったが、今は1班だけ。町に土木技術職員はおらず、担当者は「町内の橋の大半は建設後40〜50年経つ。小さな変化も見落とさないよう、もっと人手がほしいのだが」と話す。

笹子トンネルの事故を受けた道路法改正で14年から橋やトンネルを5年に1度点検し、状態を4段階で判定する法定点検が義務づけられた。16年度末までに全体の55%となる橋39万8243カ所、トンネル5227カ所で点検が終わった。

国土交通省によると、この点検で緊急度が最も高い「緊急に措置を講ずべき状態」と2番目に高い「早期に措置を講ずべき状態」と判定されたのは橋が4万2438カ所、トンネルが2304カ所の計4万4742カ所。うち、地方自治体が管理する分は4万698カ所と91%に上る。

法定点検は5年に1度のサイクルで実施しなければならぬ。そんななか、地方の人材を育成しようと国や大学などが動き出している。



老朽化した橋の状態を調べる社会基盤メンテナンスエキスパートの林忍さん＝岐阜市栗野西

大学・国が育成支援

そんななか、地方の人材を育成しようと国や大学などが動き出している。

「コンクリートがはがれて鉄筋がさびていきますね」11月下旬、岐阜市北部の橋の下で、点検作業をしていた林忍さん(45)はそう言う。対応処置のさび止めスプレーを吹きかけた。林さんは地元工務店の社員で、岐阜大が認定する「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)」の資格を持つ。

MEは、岐阜大が08年に始めたインフラ維持管理の専門技術者の民間資格。1コマ90分の講義を4週間で計80コマ受け、試験に通ると認定される。

国交省は、MEのように一定水準を満たした民間資格を登録する制度を14年に始めた。創設に関わった木下誠也・日大教授(建設マネジメント)は「技術水準の低い人が点検や補修をする」と、事故や短寿命化につながる恐れがある。国のお墨付きを得た資格の保有者を活用し、品質を確保したい」と話す。(吉野摩祐)



献花式で花を手向ける遺族＝2日午前8時5分、山梨県大月市、代表撮影

9人が亡くなった山梨県大月市の中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故から5年となる2日、遺族や中日本高速道路(名古屋支社)の幹部ら約70人が事故発生の午前8時3分に合わせて、現場などで黙禱をささげた。シエアハウスの仲間とともに亡

笹子事故から5年

遺族ら 現場で追悼

電子ピアノが得意だった洋平さんから事故の数カ月前、セッションに誘われた。楽しみにしていた息子たちとの演奏はかなわなかった。「5年たっても洋平がいないことが、信じられない」山梨県都留市での追悼慰霊式では、石川友梨さん(当時28)の父信一さん(68)＝神奈川県横須賀市＝が遺族代表として「どうして殺されたのですか。いまだにその答えを聞けず日々苦しんでいます」と追悼の言葉を述べた。その上で「日本高速の幹部らに向かい、(事故の)理由を述べていただかない限り、本当の意味での再発防止にはならない」と呼びかけた。(古賀智子)

なくなった小林洋平さん(当時27)の父寿男さん(70)＝群馬県高崎市＝はこの日の午後、甲府市で毎年開かれている追悼コンサートでサクスを吹いた。この場での演奏は初めてだ。「お父さんも一緒にやろう」。